



令和 8 年 1 月 8 日
豊島区立南池袋小学校
統括校長 佐藤 洋士

1月は、1年の中で特に寒い季節です。体調をくずさないよう、栄養のある食事をとり、しっかり睡眠をとりましょう。また、外から帰ったら手洗いとうがいを忘れずに行いましょう。また、1月は、正月や鏡開きなど、日本の年中行事がたくさんあります。南池袋小学校でも「開運おみくじ給食」や「鏡開き給食」等を実施します。今年も、衛生・安全を心掛け、学校での感染症予防対策を講じつつ、子供たちが安心して給食が食べられるように気を付けてまいります。どうぞよろしくお願ひいたします。

全国学校給食週間

1月24日から30日までは全国学校給食週間です。学校給食の意義や役割についての理解と関心を深め、学校給食のより一層の充実と発展を図ることを目的に行われています。

学校給食について知ろう!

学校給食のはじまり



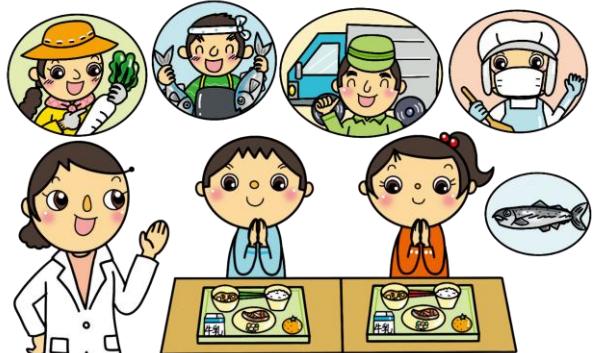
写真:新潟県栄養教諭 佐藤美春先生

小学校があつたお寺の境内には、今は記念碑が建てられています(山形県鶴岡市の大督寺)。

明治22(1889)年、山形県鶴岡町(現・鶴岡市)の小学校で、家が貧しくてお弁当を持ってこられない子どもたちのために食事を出したことから、日本での学校給食のはじまりです。その後、戦争による食料不足で一時中断されてしまったものの、戦後、外国からの援助物資で再開することができました。



学校給食の役割



給食が始まった当初は、子どもたちへの栄養補給が主な目的でした。しかし現在は、栄養バランスのとれた食事で子どもたちの心身の発達や健康の増進を目指すことはもちろんですが、社会性や協同の精神、自然環境の尊重、勤労を重んずる態度、食文化や社会のしくみについて学ぶ、教育活動の一環として行われています。

給食の歴史フェア

南池袋小学校では、1月23日～30日の下に示す6日間に『全国学校給食週間』の取組を行います。

私たちが毎日食べている給食が、どのような歴史を経て、現在の給食の形に変わってきたのかを、「給食の歴史フェア」として紹介していきます。



第1弾 「日本最初の給食」 明治22年頃の給食 (1月23日実施)

戦前の給食を再現します。山形県の小学校で、弁当を持ってくることのできない子供たちのために昼食を提供したのが始まりです。その後、全国各地で給食が始まりました。

[メニュー：雑穀ご飯(たくわん添え)・さけの塩焼き・じゃがいもとわかめのみそ汁・切干し大根の煮物・牛乳]



第2弾 「完全給食の開始」 昭和25年頃の給食 (1月26日実施)

完全給食とは、主食・おかず・ミルクの3つがそろって出される給食のことです。この頃の給食は、くじらやミルク(脱脂粉乳)がよくでていました。

[メニュー：コッペパン・くじらのケチャップあえ・コーンポタージュ・チキンベリーテー・牛乳]



第3弾 「牛乳提供の開始」 昭和33年頃の給食 (1月27日実施)

脱脂粉乳から、現在、皆さんのが飲んでいる牛乳に変わりました。給食で牛乳が出したことにより、日本では牛乳が身近なものになり、たくさん飲まれるようになりました。

[メニュー：シュガーフローラン・ワンタンスープ・マカロニサラダ・みかん・牛乳]



第4弾 「標準食品構成に基づいた給食の開始」昭和46年頃の給食 (1月28日実施)

標準食品構成とは、年齢・性別に応じた健康な体を育てるために、必要な食品の摂取量の目安を立てたものです。今も、その基準に合わせて給食を作っています。

[メニュー：ソフト麺ミートあんかけ・フレンチサラダ・フルーツヨーグルト・牛乳]



第5弾 「米飯給食の開始」 昭和51年頃の給食 (1月29日実施)

家庭での食生活が洋風化し、米を中心とした日本型食生活習慣の大切さを伝えるために、米飯給食が始まりました。米飯給食の回数は、当時は月に1・2回の提供でした。

[メニュー：カレーライス・青のりポテト・野菜の塩もみ風・みかん・牛乳]



第6弾 「食育としての給食」 現在の給食-世界の料理- (1月30日実施)

現在の給食では、自らの健康を考え食べる力の育成や様々な食文化の継承等、教材としての役割を担っています。この日の給食は、各国の食文化を伝えるために、「世界の料理」の紹介として、スペイン料理を味わいます。

[メニュー：パエリア・トルティーヤ・カルド・ガジェコ・オニオンドレッシングサラダ・牛乳]

